



道政かわら版

RYUICHI KITA DOUSEI KAWARABAN No.18

馬 迎春

2014 新年あいさつ



北海道議員
喜多龍一

あけましておめでとうございます。

昨年は六月に二年余りの議長職を終え、北海道のために全霊を尽くして働かせていただきました。感謝の一言に尽きます。

また、参議院選挙北海道選挙区の候補選出の際、短期間で六千八百二十九筆の推薦人の署名を集めて頂くなど、十勝をはじめ道内の多くの方々・団体等のご支援をいただきましたが、ご期待に沿うことはできませんでした。お礼とお詫びを申し上げます。

昨年を振り返ってまず挙げなければならぬのは、円高・株安・長引くデフレからの脱却という長年の命題に、安倍のミクス効果により、円安・株価の上昇という流れを、当初一過性で終わるといつ予測もあつた中で、年間を通じて作り出したことです。そして参議院選挙でのねじれの解消、安定政権の実現は、米国をはじめ先進国との共通の悩みから、まず日本が脱したことです。

十一月国会で国債を発行することなく五兆五千億円の補正予算を組み、消費税増税を前に景気の底支えをする十五か月予算として措置できたことは、その成果と言えるでしょう。

一方で燃油や飼料用穀物・資材等輸入に頼るモノの価格が高止まりし、関係業界の経営環境は厳しさを増しています。

またTPPについては今年にもつれ込みましたが、物品の関税は自由化率九十五%という日本としてはこれまでにない高いレベルに引き上げて、これ以上譲れないところまで譲る品目を積み上げ、妥結に向けた交渉に臨む姿勢が鮮明となってきたように感じます。

また、消費税率引き上げのしわ寄せが大きいのは低所得者で、北欧では食料品などを対象とすることが国



肖像画掲額式

民の満足度が高いとされることから、「消費税10%時に軽減税率を導入」と税制改正大綱に盛り込まれましたが、軽減対象品目や財源確保はこれから不透明。

農業政策の見直しでは、その中心に「農業所得倍増、二〇二〇年に輸出兆円(現在四百億円)、将来的に八兆円」が据えられています。勿論牛肉や長芋など輸出で勝負できるものは多くあるだろうし、「安心安全」も強みです。

しかし食糧安全保障の考え方が見当たりません。配合飼料や肥料など輸入に頼り、食糧自給率はここ数年四十%を切り三十九%で推移しています。国は昨年八月八日の総理支持に基づき、「攻めの農林水産業」のための農政の改革方向として、農林水産業の成長産業化(産業政策)と明確にうたっています。世界が穀物の争奪戦に入ってきている中で、「食糧政策」ももつ本の柱に立って良いんじゃないかと感じています。

そつした中、財政的にも厳しく地方が疲弊しつつある北海道がどう力強く生きていくか、将来展望を描いていくか、北海道への強い思いのもとに二時の猶予なく取り組んでいかねばなりません。広い北海道、圏域ごとに特色があり、地域ごとに個性をどうすればもつ一段上がるか、官民協力する姿をどう見えてくるはずですか。できるかどうかは後のこと、何が必要かをまず洗っていきましょう。

十勝では次産業の他、医療系食・グローバル人材な

ど教育、観光、宇宙産業など、優位な分野や十勝ならではの芽、そして新たなチャレンジなど大きな伸び代を持っています。十勝は桜です。桜は何度も花を咲かせます。北海道も桜です。何度でも花を咲かせます。

明治の開拓のクワが培ってきた北海道の潜在力は、戦前・戦中戦後の日本に、人や食糧、米やイモや石炭や鱈や魚油や木材や軍馬など、日本の含み資産としてその力をフル発揮し、激動期の日本を支えてきました。しかし、高度成長期を迎えた昭和五十年代に入り、厄介米・厄介道と言言葉もささやかれるようになりました。

今、だれが道産米を厄介米という人がいるでしょうか。道産子は、北海道は頑張っています。この流れをさらに積み上げていく知恵と力の結集が求められています。

私は今、道産海産物の東アジアへの輸出やモンゴル国への植林技術支援などに取り組んでいます。

これまで培ってきたノウハウと人とのネットワークを駆使して、引き続き「十勝と北海道の挑戦」を続けたいと強く思っています。

どうぞ今年もご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶と致します。



喜多龍一十勝連合後援会総会



TPP協定交渉等に関する緊急要請

平成二十五年二月六日

安倍総理は先の日米首脳会談において、TPP交渉参加が「聖域なき関税撤廃を前提とするものではない」ことを確認できたとして、帰国後、参加表明に向けた流れを二気に加速させています。

そこで二月二十七日、知事関係団体等とともに政府・与党関係者等に対し緊急要請を行いました。

「主要要請先との要請結果（抜粋）」

■林農林水産大臣

（喜多）
・強い農業づくり、攻めの農業を進めるといいますが、言葉どおりののか。今、最も重要なことは、十分な情報開示と判断までのプロセスの明示だ。

・国益に叶うかどうかの判断だが、生産者の努力や施策をもっても如何ともし難い内外価格差がある。これまで聖域とされてきたタリフライン九百四十品目（うち農林水産品八百四十品目）が守られるのか、政府の政策としてフォローできるのか。できなければ地域が壊れてしまう。

・国家主権の侵害に繋がりがかねないISD条項等はどうかとなるのか。想定される影響に対応できるのかを確認しながら判断してほしい。

（林大臣）

・総理には「慎重に丁寧にプロセスを踏み、最期に決断するにしても、ゆくプロセスを踏んでもらいたい」とお願いしている。

・「攻めの農林水産業」はTPPを睨んでのものではない。今、日本の農業は岐路に立っている。TPPがあるかないかによっていかなければならぬ。

・例外品目の話については、撤廃の場合の影響も試算中。撤廃となれば北海道への影響が一番大きい。もし参加となれば、その対策として、全国一律でなく都道府県単位で使えるような交付金のようなものも考えていかなければならない。

■塩崎自民党政調会 会長代理

（喜多）

・国民的議論を行うための十分な情報開示と、判断するまでのプロセスが重要。

・国益に叶うか否かの判断基準として、これまで聖域としてきた農林水産物のタリフライン八百四十品目をどうするのか、これまで国益と言ってきたものが守られるのかという問題が二つ。

・もつとは、主権に関わるISD条項や国民皆保険制度などがどうなるのかという基本的な情報把握、それから想定される影響などを確認した上で判断が求められると考えている。しっかりと対応してほしい。

（塩崎会長代理）

・日米首脳会談で例外なき関税撤廃ではないと声明が出た。今日の外交・経済連携調査会でも確認したが、我々は国民に対して「例外なき関税撤廃だったら駄目」と明確に公約している。

・五つの懸念材料について、喜多議長から話があった。我々から総理に対しては「公約に基づいてやってください」とお願いし、その結果が今回の共同宣言になった。

・日米首脳会談で「関税撤廃を前提とするものではない」ことを確認したと言っても、他の分野を含め確認すべきことは沢山あるため、総理も党内意見を丁寧に聞いた上で判断したいと言っているのだと思う。

・現在、参加による影響を試算中だが、その結果をどう考えていくのか、話を聞いていくつもりだ。全国一本の数字だと北海道はどのなんだと、そういうことも考え、判断していかねばならない。緊急要請いただいたことを政調会長や官邸に伝えたい。



音更町小麦刈りサバまわり

モンゴルへの植林事業

平成二十五年二月二十五日

私は以前から、ロシア極東地域や北東アジアなどの寒冷地において、北海道の持つ土木や農業、住宅などの寒冷地技術を活用した国際協力は極めて有効であると考えてきました。

その結果、この度JICAの「草の根技術協力事業」としてモンゴル・ウランバートル市への植林技術支援事業が採択され、道や日本モンゴル文化経済交流協会、北海道造園緑化建設業協会などで構成する「蒼いウランバートル技術支援実行委員会」が事業主体となり、新年度から三カ年の事業がスタートする運びとなりました。今後、こうした事業をきっかけとして、北海道とモンゴルとの経済や文化交流が拡大することを期待しています。

モンゴルに植林技術を

道や道立林業試験場など 来年度から支援へ

【札幌】道や道立総合研究機構林業試験場、日本モンゴル文化経済交流協会などで構成する「蒼いウランバートル技術支援実行委員会」は、来年度から国際協力機構（JICA）の事業として、モンゴルの首都ウランバートル市での植林技術支援を行う。ウランバートルはレアアースの生産、輸出などで急速に発展し、都市化が進む一方、乾燥地帯のため樹木が育ちにくく森林が少なく、植林が計画され、昨年5月、モンゴルでサクラの植樹を支援してきた民間団体と林業試験場に支援を求めた。

「草の根」道や道立総合研究機構林業試験場、日本モンゴル文化経済交流協会などで構成する「蒼いウランバートル技術支援実行委員会」は、来年度から国際協力機構（JICA）の事業として、モンゴルの首都ウランバートル市での植林技術支援を行う。ウランバートルはレアアースの生産、輸出などで急速に発展し、都市化が進む一方、乾燥地帯のため樹木が育ちにくく森林が少なく、植林が計画され、昨年5月、モンゴルでサクラの植樹を支援してきた民間団体と林業試験場に支援を求めた。

具体的な事業内容は「苗木の生産体制及び植林技術の確立」「専門家の派遣、研修生の受け入れによる技術者の養成」で、ウランバートル市南側のトール川沿いに広がる1200畝の国立庭園公園に植林する。2013～15年度の3カ年計画で、事業費は3000万円。

十勝毎日新聞 平成25年1月11日



2013年 新聞記事から

十勝毎日新聞 平成二十五年九月二日

北海道の協力に 「ありがたい」 モンゴル植林支援 喜多道議ら報告会

【札幌】モンゴル・ウランバートル市で植林技術支援を行う「蒼（あお）いウランバートル技術支援実行委員会」の今年度1回目の渡航報告会が2日、道庁赤れんが庁舎で開かれた。7月に現地を訪れた同実行委の佐藤紀子会長（日本モンゴル文化経済交流協会会長）や喜多龍一名誉会長（道議）が出席。道の担当者や、現地の状況や今後本格化する人材育成事業計画について報告した。



渡航報告会であいさつする佐藤会長（左）。右は喜多道議

公園などを訪れた7月22、26日の渡航は、事業開始を前に実施研修の打ち合わせや意見交換をする狙い。道森林活用課環境整備グループの蔵中直樹主査は「意見交換では急激な地下資源枯渇への将来不安の声があった一方、気候や人口規模の近い北海道の協力はモンゴルにもありがたいとの声があった」と報告した。

今月15、22日の第2回渡航では、モンゴル国内の樹種を使用した研修を行う予定。佐藤会長は「夢を育てるプロジェクトが3年間滞りなく続くよう全力を尽くしたい」と話した。

（犬飼裕一）

十勝毎日新聞
平成二十五年七月十日

◆喜多龍一道議（十勝区）が来社

定例道議会終了報告などのため9日、十勝毎日新聞社を訪れた。

喜多氏は「今回、一般会計の補正で93億円の予算を議決した。財源として16億5000万円を財政調整基金から繰り入れ、その残高が9億1000万円ほどという状況。（財政的に）厳しいものを感じており、今後も（道議として）緊張感をもって当たりたい」とした。写真。

参院選は「厳しい投票率が予想されているが、政権交代から半年余り、経済面などいい部分が多い。それらを本物にしていくためにも、自公政権の安定が必須条件だ」と訴えた。

2年1カ月務めた道議会議長職を振り返り、「多くの人の協力で充実した活動ができた」と感謝の言葉を述べた。



十勝毎日新聞 平成二十五年九月九日

政治 スポーツ

◆喜多龍一道議（十勝区）を囲む野遊会

8日、幕別町内の札内川河川緑地はらっぱ236で開かれた。

札内後援会（古田和昭会長）の主催。初めに古田後援会長があいさつ、来賓の岡田和夫幕別町長が祝辞を述べた。

喜多氏は、6月に退任した道議会議長としての2年余りを振り返りながら、「東日本大震災直後の就任で原子力発電所を持つ地域の議長として、国に現状を発信することなどに力を注いできた。今後も議長経験者として、北海道が長期展望で間違いのないよう議会で取り組んでいきたい」と話し、本締めで終了した。



た写真。JAさつないの高橋秀樹専務の発声で乾杯し、焼き肉を囲んで交流した。最後に吉村学・町商工会長の3本締めで終了した。

北海道新聞 平成二十五年九月二十八日

HAC離島路線 維持前提に交渉 自民道連、道に要望

自民党道連は27日、日本航空による北海道エアシステム（HAC）の再子会社化について、離島路線の維持などを前提に日航との交渉に臨むよう荒川裕生副知事に申し入れた。

道はこれまで協議を

続けてきた日航と国土交通省に、HACを加えた4者協議を10月中旬にも始める方針で、HACの1億1600万円の債務超過（2013年3月期）の解消方法や、日航の出資比率などを話し合う。

十勝毎日新聞 平成二十五年十二月八日

政治 スポーツ

◆喜多龍一道議（十勝区）を囲む女性の集い

1日正午から音更町の十勝川温泉第一ホテルで開かれた。喜多龍一女性の会（浦島志美子会長）主催。

喜多道議は、2年余りの



議長職時代を振り返った上で、「秘書時代から道議会議員を含め（政治の世界に入り）38年目。積み上げてきたキャリア、経験を生かして、もうひと踏ん張り、もうふた働き、この十勝のため、北海道のため、これからも仕事をしたい」と述べた。写真。

十勝連合後援会の竹井安弘幹事長の発声で乾杯し懇親を深めた。最後は同後援会の千葉幹雄会長の万歳三唱で締めくくった。集いに先立ち、同会の総会も行われ、全役員が留任した。



広尾町畜産祭り



幕別町畜産祭り



足寄町芽登花見



足寄町中足寄花見



オールジャパンパッチ選手権



音更消防団演習



帯広駐屯地第4普通科連隊創立62周年記念行事



清水後援会PG大会



豊似農村運動会



自民党北海道第11選挙区支部 地域政策懇談会19市町村、各団体



衆議院議員 二階俊博先生に高規格道路要望



水鉄砲選手権大会 鹿追町商工会青年部主管



浦幌後援会PG大会

自由民主

LIBERAL & DEMOCRATIC




発行所
自由民主党本部
郵便番号100-8910
東京都千代田区永田町1-11-23
電話 東京 03(3581)6211(代表)
振替口座 東京00180-1-19518

自由民主党ホームページ URL <http://www.jimin.or.jp/>



上士幌後援会PG大会



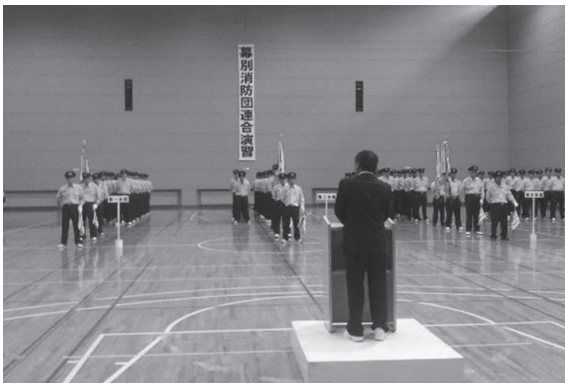
2013年 活動写真



中川ゆうこ林産後援会勉強会



池田後援会PG大会



幕別消防団連合演習



北海道獣医師大会



砕氷艦しらせ(十勝港)



林農水産大臣、中川代議士と農業視察



秋鮭漁(大津港)



流木処理(浜大樹漁港)

我輩は秘書である

本年は、冬季オリンピック、ワールドカップサッカー等、何かと楽しみの多い年となりそうです。特に、スピードスケートの長嶋選手、高木姉妹には大きな期待を寄せています。

また、幕別町忠類出身の漫画家荒川弘さんの作品「銀の匙」がいよいよ今春公開となります。十勝を舞台とする映画に対する期待と十勝出身者の活躍に自分ごとのように心躍らせ、何故だか誇らしく思っています。

さて、ご主人様は二年二月の議長職を無事に終えました。議長室のデータによると二年二月の間に、三百十六日登庁し、百七回地元と札幌を往復し、政務及び市内行事を除く総移動距離は十九万五千四百km(地球を四周出来る)に達したそうです。打ち合わせ回数は、四千二百二十二回、日平均十三回だそうです。総出席行事数は三百三十四行事、海外出張十回(北方領土除く)、道外出張九回、東京出張三十二回、札幌を除く道内出張三十二回でした。

人ごとながら大変なんだなと思うと同時に、議長室のデータ管理に感心します。

データ管理と言えば、ワープロからパソコンへ、FAXからメールとなり、辞典からインターネットがあたり前となったのは、つい最近のことです。そして、パソコンの賞味期限もどんどん短くなっています。この進化に置いていかれた行政のデータ管理は今後の課題となっています。

賞味期限と言えば、年末の女性の集いでは、大変盛り上がりました。ご主人様は「豚もあだりや木に登る」だそうですから、元気なうちは頑張ってください。それより先に我輩の賞味期限が切れそうです。皆さんと共に今年も頑張ってください。参りますのでよろしく願います。

編集後記のかわり

喜多龍一のホームページも是非ご覧下さい。

<http://www.kitanyu.com>